

日時: 2009 年 10 月 2 日(金)18:30~20:30

会場: 本庁舎 20 階 交流会場

1. 常務理事あいさつ

本日の推進評価委員会では小地域福祉活動について色々ご意見をたまわりたい。よろしくお願ひ致す。

2. 配布資料確認

最近の取組み

(1) 講師外部派遣について

・10月末までにはホームページのリニューアルにて掲載できるように準備をすすめている。

(2) 相談業務課題調整委員会主催によるシンポジウム報告

・福祉広報と報告書を配布。

3. 今後の重点的な取組み

(1) 小地域福祉活動について

・地域で活動されている団体の方々からヒアリングをおこない、活動のエッセンスと知恵をいただいた。

・また、民生委員との懇談会を開催し、社協に望むことなどを伺った。

・地域福祉コーディネーターについては、すでに取り組みをはじめている西東京市と豊島区の社協を視察。

・西東京市では、コミュニティソーシャルワーカーと呼んでおり、4 地区に 4 名配置の予定。

・豊島区では、すでに 2 名を配置し、相談活動を中心に展開している。

・練馬区社協における「小地域福祉活動」のイメージ

・なぜ小地域活動に取り組むのか？ 地域の問題を地域で解決していくために助けあい、つながりのある地域を作る。

・基本的考え方としては、社協の拠点を活用し民協(20 カ所)を単位とした地区で展開することを 5 年後の目標としたい。

・本日の論点について

①20カ所といっても練馬区の人口を考えると、1ヶ所あたり3.5万人の規模になる。この規模がどうなのかということも含めて本日はご意見をいただきたい。

②住民懇談会について

住民懇談会をどうやってどう展開していくか？住民懇談会以外の手法についてもグループで意見交換をお願いしたい。また、住民が地域の問題解決に取り組むために必要な環境整備の手法と展開についても意見を伺いたい。

(2) 地域の福祉人材の育成について

・練馬区社協がおこなっている研修会や講座をマトリックスでまとめた。小地域福祉活動を展開していく上で人材育成は重要である。今後の策定・推進評価委員会でも経過を報告していきたいと考えている。

(3)グループにわかれて意見交換(約1時間)

A、Bそれぞれのグループにおける意見交換。

【Aグループ】

<グループ討議>

- ・民協、行政、社協など、既存の縦の繋がりではなく、横の繋がりが必要と感じている。
- ・ボランティア活動等の活動を行っているが、地域とのかかわりが少なく、民生委員が誰なのかも分からない状態。普段の活動の中で横のつながりを常に持つ事は難しいと感じている。横の繋がりが必要に見える事、見せ方が大切ではないか。
- ・地域で1つの事をやると色々な事に関わることになる。
- ・地域活動は、まず、場所の確保が大切。場所がないと活動ができないが、ボランティアで活動している方が多いため、家賃の高い所を借りる事は困難。
- ・地域の方にメリットがないと人は集まらないので、メリットを作る事が必要。
- ・継続的に関わっていく事が難しいと感じている。
- ・地域での課題、地域に障害者施設がある事を知らない方が多いので、練馬区社協には地域に知らせる・理解してもらえるようなアプローチをして欲しい。
- ・地域住民に障害者への理解を深め、偏見をなくすような活動を練馬区社協でして欲しい。
- ・練馬社協としてコミュニティソーシャルワーカー、コミュニティワーカー、地域福祉コーディネーターの役割をどう考えているのか整理する必要がある。
- ・「福祉」と名前がつくと狭くなり、入って来にくい印象がある。

➤ 民協 20 地区単位について

- ・包括支援センター、民協区、小学校区等のすりあわせをする意識を念頭に置く必要がある。包括はこっち、地区社協は別の所となると機動力が落ちてしまう。
- ・既に地区活動を行っている団体との関係をどのように考えているかを明確にした上で単位を考えたほうが良い。
- ・既にある社協の拠点(作業所、VC、地域生活支援センター)の位置づけをどうするのか。

➤ 住民懇談会を手法として展開することについて

- ・最終的な到達ラインを決めておかないと懇談会のすり合わせが困難になる。

【Bグループ】

<グループ討議>

- ・ネーミングの件で、色々案があるようだが、『福祉』と言った途端に引く人がいる。「コミュニティソーシャルワーカー」を推奨したい。その方が間口が広い。
- ・(地域福祉活動団体等への)ヒアリングは手段だったと思うが目的でいいのではと思っている。小地域福祉活動としての活動にして欲しい。
- ・小地域福祉活動は今、地域で行っている団体の活動を大切にしながらやるべき。
- ・地域住民による福祉活動は怖い。活動が失敗しても関わった住民同士は会い続ける。よって距離感をもつことが大切。それこそが社協が持っていること。距離感について社協に指導して欲しい。
- ・民協単位だと1ヶ所当たり3.5万人の規模になる。その規模だと福祉課題にどう対応していくのかいけるのか。お互いに目の見える形(例えば20世帯くらい)でないと難しいのではないかな？
- ・エリアの数が多いと職員の数もたくさん必要だし時間もかかる。
- ・1人暮らしの高齢者などの場合には、地域包括(高齢者相談センター)などと協働しないとアプローチは難し

い。

- ・介護保険を使っている人はいいが、何もいない人はどうアプローチするのか？
- ・マンションが増えて人口が増えている。人間関係が疎遠。そういう環境で地域を考えるのは難しい。
- ・「つどい、出会う」からはじめることが大切か。
- ・今は成熟社会。経済も社会も大きな成長は見込めない。潤いを求めるしかない。『福祉』を出さないでコーディネートするというで動いたらどうか。
- ・「ひとりの不幸も見逃さない」を区民に求めるのは無理。
- ・社協がすべてをやらなくてもいい。「こういう活動もあるよ」ということを社協が伝えていく役割も大きい。他の地域のことについて情報提供し、地域の情報を整理して情報提供していくことも社協の大きな役割である。
- ・お金でない所にも目を向けることも大切。例えば、豊田商事の事件、高齢者は騙されてもいいから「この人のためにお金を出したい」と思ったわけで、その「お金」に目を向けるのではなく、そう思った孤独に目を向けて欲しい。
- ・地域を作ることは地域の人間関係を作ること。
- ・「福祉」を出さずに「町」に働きかける。
- ・新住民への案内所の役割を社協に担って欲しい。
- ・すでに活動している団体から「頼りにされる社協」になることが大切。

(4) 講評(2名の方から講評を頂く)

住民として「つどう」ことについて考えた。どんなことがあったら出かけていくのか、困ったことの相談をどこにすればいいのか…。きららなどの相談窓口には、人がそこに集まってくる。そこに行く楽しいことがある。困りごとがあつて相談に行くのではなく、かかわりのある人がいるから相談する。「珍しいものがある、美味しいものが食べられる」ということもきっかけとなる。

住民懇談会は、自然につどえる場を作って「実はね・・・」という環境をどう作るかが重要。例えば、散歩で足を止めて見知らぬ人と話をすると、それがきっかけで親しくなって色々教えてもらえる。また会うと以前とは違った関係ができていく。自然に人が集まっている所は寺、スーパーなど結構ある。出発点となる「つどう」のしかけが重要。

東社協でも、今後、地域福祉活動についてコーディネーターの役割などについて整理していく予定である。社協にコミュニティソーシャルワーカーを配置、地域の活動団体、地域住民 という3層が必要だということが事例からみえてきている。住民の中で活動している人が核になって社協がその人たちとどうつながっていくかが大切。団体へのフォローも社協がやる。社協だけが問題解決するのではない。

小地域福祉活動を進めていく上では、具体的に気をつけなければいけないことが結構ある。練馬区のように人口の多い地域の悩みとして、2期の地域福祉活動計画では民協単位で小地域福祉活動を考えているが、小学校60、中学30、地域包括26 というエリア割りとどうすり合わせるか、できるだけすりあわせたほうがいい。××(例えば防災)ならこのエリア、××だとこのエリア・・・となるとやりにくい。

横浜社協では、このエリアが大体あっている。一つの地域ケアプラザに3~4の連合町内会があり、連合町内会と地区社協は同じエリアとなっている。また、福祉だけではないエリアとのすり合わせも必要。また、活動のモデル地区をつくる時にはズレがないように注意。

集まれそうな場所の設定。同じような地域活動をしているところがあつて場所の問題もあると聞いている。住民福祉協議会(地区社協)を頭から割り振らないほうがいい。現存している団体を意識すべき。そうしないと地域の中で葛藤が生まれる。活動している団体に対して社協が何ができるのか? 場所(拠点)の提供、専門性の提供など。

頭からでなく、ボトムアップ。例えば「ネット関」が実質の地区社協でいい。地区社協を名乗らなくてもいい。

地域の人に色々してもらわないと地域が回らなくなっているという行政の事情もあり、どうせやるなら『やらされ感』を持つのではなく、やらされ感を達成感に変えていくしくみが大切。

今は「防災」。地震がきてどうしようという方がみんなが考える。生活の上での「防災」と福祉の上での「防災」。こういうスタートの仕方のほうがいいかもしれない。たとえば、防災テーマの住民懇談会、防災マップ作りなど。過大な負担を掛けずに、まずはやってみる(1.5倍くらいの力でできること)が大切。

組織をどうするか？社協の組織改編も必要になるのではないか。コミュニティソーシャルワーカーや地域福祉コーディネーターなど、社協専従職員はどちらを担うのか、またそれぞれの定義をきちんとすることが必要。

私自身の中では、コミュニティソーシャルワーカーは個別ケースを地域ベースに解決していく人で、はじめに個別支援がある。コミュニティワーカーは具体的に個人を見ないでしくみを作ろうとしたときに個人が見えてくる。例えば何かのネットワークを作ることが目的として先にある、その結果として個人がひっかかってくる。地域福祉コーディネーターは、すでにできあがったものをどういうふうに関連させていくかである。ひとりがすべてをやることは無理。組織としてどうやるかの検討も必要。また、自治会と民協に「その気」になってもらうことが最も重要。

5. 今後のスケジュール説明

- ・9月には新計画の素案作成し予算化につなげたい。また、パブリックコメントの期間は前回よりも長くとする予定。
- ・22年度中には新計画の策定を完了し、練馬区の地域福祉計画との整合性もとっていく予定。

6. 次回の日程について

次回日程:平成21年12月18日(金) 18:30～ 練馬ボランティア・市民活動センター会議室

以上

以上